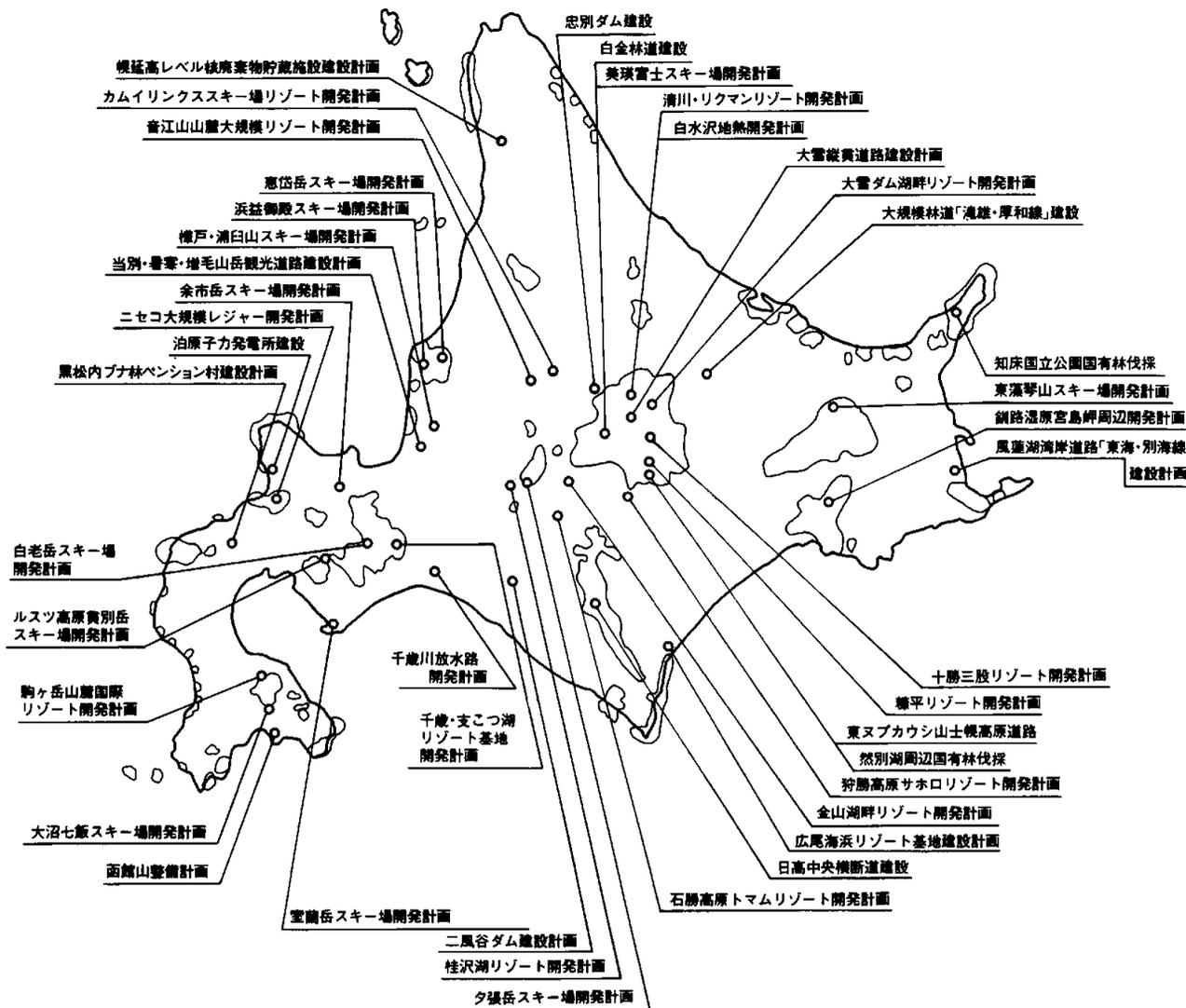


図-1

道内の主な開発計画



リゾート法の諸問題と 大雪山の自然

寺島 一男

◆縦貫道復活の陰に

昨年春、十四年ぶりに突如、大雪縦貫道が復活して道民を驚かせた。北海道開発局旭川開発建設部が、独自のプロジェクト「冠（環）大雪国際リゾート建設Ⅱ（ヘルシー緑の帯Ⅱ）」の中で復活させたのである。大雪縦貫道は開発道路としてのメリットがない。建設に伴う自然破壊が大きく、大雪山の貴重な自然を著しく損なう恐れが強いとして、全国的に盛り上がった運動の中で中止になった道路である。（図1-2）（図1-3）。中止となった直後に、国立公園内の道路計画に対する厳しい基準が、自然環境保全審議会からも意見書として出され、誰の目にも復活はありえない状況にあった。にもかかわらず、旭川開発建設部が臆面もなく復活させてきた背景には、リゾート法という強い後ろ楯があったからである。

◆影響の大きい北海道

リゾート法、いわゆる「総合保養地域整備法」は国土庁・農林水産省・通商産業省・運輸省・建設省・自治省の六省庁により、第一〇八国会に提出され、昨年五月二十二日に可決成立し、続いて六月九日に公布施行された。この法律、国民の中で大きな論議を呼ぶこともなく、また国会でも一部の政党を除いて、反対らしい反対もないうちに成立してしまつた。ところが、いま、大雪縦貫道の復活の例を持ち出すまでもなく、この法の成立により全国各地の優れた自然が、かつてない大がかりな開発の影響を受けようとしている。とりわけ、本州各地に比べ多くの自然を残している北海道では、その傾向が強い。さらに拍車をかけるように、北海道のほとんどもいえる自治体が、リゾート開発に異常とも思えるフィー

バブりを示しているのである。（図1-1）（表1-1）その狂乱ぶりは、北海道の自然に食指を伸ばし、リゾートブームに小躍りして喜んでいる巨大観光資本ですら、いささか食傷するほどの過熱ぶりなのである。

◆進む自然破壊

リゾート法の問題の第一は、残された最後の自然ともいふべき優れた自然が、広い範囲にわたってねらわれ、結果的には自然破壊ないし環境の悪化が進むと予想されることである。それは、この法が、基本的には「地域振興と内需拡大」目的とした開発促進法であり、「良好な自然条件等を備えた相当規模の地域」をその対象としているからである。相当規模とは、一五万ヘクタール規模である。実に大変な大きさで、国立公園でみても全国二十八あるうち、この面積を凌ぐのは大雪山・磐梯朝日・中部山岳の僅か三つの国立公園しかない。全体の六四パーセントは、この面積の半分にも満たないのである。更にこの中には、面積三千ヘクタール規模の重点整備地区が数カ所設けられ、スポーツ・レクリエーション施設を始め、教養文化施設・休養施設・集会施設・宿泊施設などが、集中的に設けられるのである。一口に三千ヘクタールとはいえ、後楽園球場なら優に千三百は入る広さである。そこに施設が集中するのである。またものだけでなく圏域や施設の大規模化は、その規模に見合った人の導入がはかられるのが普通であるから、たくさん人もそこに集中するのである。当然の帰結として、開発行為に伴う自然破壊のほか、し尿・ゴミ問題から野生動物に与える影響まで、環境に与えるインパクトは極めて大きいものがあると考えられる。

加えてリゾート法は、民間事業者の活力と創意工夫を最大限に活用することが大きな眼目であるから多くの場合開発の実質的な主体は民間企業となる。

となれば、過去の事例からしても、利潤追求が優先して、環境の保全は二の次になるか切り捨てられるだけである。また、重要なことは、リゾート法の促進をはかるために、農地法の適用、国有林野の活用、港湾に係わる水域の利用等に対して、特定施設の設置が促進されるよう適切な配慮をするようになっていくことである。従来、これらは、比較的厳しく適用され、無軌道な乱開発を結果的に防いできていた。リゾート法が専ら利用の観点から施設整備を整備するだけで、保護の観点が抜けているだけに、「配慮」の仕方によっては、極めて危険である。リゾート法の対象地域がこれまでにないスケールだけに、その範囲に国立公園をはじめとして各種の自然公園が含まれることは間違いないことであって、場合によっては保護の欠落した公園利用となる可能性も否定できない。

◆住民疎外の地域開発

第二の問題は、住民主体のオリジナルな地域開発が阻害される可能性が強いことである。リゾート法は、市町村を単位として複数市町村にまたがることを前提にしているが、市町村の連携だけでは、法の主旨に沿った開発が出来ないことは明白である。殆どの自治体は資金不足であり、計画を立案策定できるスタッフ不足であり、工事のできる技術力を持つ地元民間企業などはないからである。資本金、企画力、技術力のある大手資本に、全面的に頼らざるをえないのである。自治体と大手企業との第三セクター方式をとつても、その中身はほとんど変わらない。



神々の座 (北嶺岳・熊ヶ岳)



高層湿原、松仙園

表-1 道内観光・リゾート開発の主な動き

支庁	市町村	事業名	事業主体	内容
空	芦別	星の降る里ワールド	第3セクター(今秋発足) 東急グループ	今秋から着手。2,000㌔の区域にスキー場、ゴルフ場、ホテル、天文台、宇宙公園、スポーツ施設などをつくる。事業費100億円
	深川	音江山麓大規模リゾート	民間(予定)	大規模スキー場やフルシーズン滞在型のトータルリゾート
	北竜	恵岱岳総合森林レクリエーション開発	エタイリゾート(第3セクター)、三栄スポーツ産業(本社・札幌)	スキー場、リゾートホテル、運動公園。区域は、雨竜町内に入っており、まず雨竜町の同意が必要
知	雨竜	山岳レクリエーション開発	民間(予定)	雨竜沼の下にある山小屋付近にログハウス、ホテル、ゴルフ場などを造成し、リゾート基地化する構想。恵岱岳南斜面にスキー場
上	占冠	アルファリゾート・トマム	ホテルアルファ、アルファ・ホーム(関兵グループ)	北海道を代表する高級リゾート。リゾートホテル、コンドミニアム、スキー場、テニスコート、BMXコース。36階建てリゾートホテル「ザ・タワー」12月開業。ゴルフ場63年オープン。国内最大の屋内プール63年着工。「ザ・タワー」を10棟建て5万ベットの世界一の山岳リゾートを目指す
	富良野	富良野スキー場	国土計画(西武鉄道グループ)	新富良野プリンスホテル(400室)を建設中。63年12月オープン
		ハイランド・フラノ(ラベンダーの森)	富良野市、地元民間	ラベンダー畑1.6㌔、テニスコート、宿泊施設
	南富良野	金山湖畔リゾート	南富良野町、民間	スポーツ・レクの総合基地に。西武セゾングループが関心を示し、独自のプランを町に提出
	美瑛	ジャパンヘルシーゾーン開発計画	財団法人「ジャパンヘルシーゾーン管理運営センター」(仮)、国土計画(西武鉄道グループ)	クアハウス、スキー場、ゴルフ場、リゾートホテル、火山博物館
	旭川	カムイリンクスキー場	神居山スキー場会社(第3セクター)	リゾート化を目指し、ホテル建設の計画があり、日本航空と交渉。第3セクターは、日本ゴルフ振興(本社・大阪)と旭川市振興公社の出資
	東川	キトウシ家族旅行村	東川町、民間	人工ラジウム温泉、キャンプ場、サフォーク牧場、迷路。近くにスキー場とゴルフ場
上川	清川・リクマンリゾート	第3セクター	地熱利用のリゾート開発構想。町と大手企業との共同開発で、ホテル、スキー場、ゴルフ場、プール	
網走	東藻琴	藻琴山スキー場開発	東急グループ	スキー場とスキーセンターをつくり63年12月オープンを目指す。サロマ湖リゾートホテルとともに東急グループのオホーツク開発の核。スキー場計画については自然保護の立場から反対運動が起こっている
	網走	リバーサイドスクエア	網走市、民間	網走川河口付近の都市再開発。シティホテル、水辺レストラン、工芸創作館、朝市物産館などのまちをつくる計画
胆振	室蘭	室蘭岳スキー場建設	室蘭リゾート開発(第3セクター)、ばんけい観光	自然保護団体の反対運動で計画は遅れている。
	大滝	スキー場建設	大滝観光公社(第3セクター)、加森観光	計画凍結
	苫小牧	ニドム・北欧風リゾート基地	ザ・ニドム(苫小牧の観光会社)	ゴルフ場(63年6月オープン)、乗馬、テニス、コテージ
日高	平取	二風谷観光開発	平取町	二風谷ダム(68年完成)の景観を生かした観光開発。レストラン、チセの整備など
十勝	新得	地中海クラス「バカンス村」	西武セゾングループ	リゾートホテル、スキーロッジ、ゴルフ場。今年12月オープン。ペンション、コンドミニアムも計画
	上士幌	糠平リゾート計画	国土計画	スキー場
	帯広	ポロシリ高原リゾート開発	帯広市、大手観光企業	三浦雄一郎スキー学校、ホテル、ペンション、ゴルフ場、上級スキー場(幌尻岳)、乗馬、テニス、ログハウス、キャンプ場
	広尾	海浜リゾート基地	広尾町、民間	シーサイドホテル、レストラン、人工島、海浜公園
釧路	忠類	リゾート開発計画	忠類村、民間	ナウマン記念館、スキー場
	鶴居	釧路湿原	国土計画(西武鉄道グループ)	宮島岬周辺500㌔の土地を買収済み。ゴルフ場、コテージなどを造成か

(月刊ダン'87.10月号より)

表-1 道内観光・リゾート開発の主な動き

支庁	市町村	事業名	事業主体	内容
石狩	札幌	札幌テルメ	タウサステルメ札幌 (ソフィア中村グループ)	札幌の茨戸に63年4月登場する健康リゾート。大プール、各種サウナ、レストラン、テニス。年間180万人見込む
	千歳	サーモンパーク	千歳市、民間	インディアン水車付近3.5畝を開発。サケ・マス博物館などを計画
	当別	青山高原リゾート計画	当別町、民間	人造湖の当別湖ができるので、保養村、ダム記念館、観光牧場など造成。四番川-暑寒-増毛の山岳観光道路も計画
	浜益	海浜リゾート基地構想	浜益村、民間	ヨットハーバー、観光船、リゾートホテル、スキー場。国土計画(西武鉄道グループ)と接触。スキー場は浜益御殿(1,039㎡)に予定。総事業費は135億円
渡島	函館	函館山整備計画、西部地区の観光整備事業	第三セクター(予定)、 函館山ロープウェイ株	大型ロープウェー(150人乗り)の建設、函館山麓展望施設の全面改修
	七飯	函館大沼七飯スキー場	西武鉄道グループ	スキー場の拡大とホテル新設?
	森	駒ヶ岳山麓国際リゾート計画	西武セゾングループ	セゾングループ、日本郵船などが、480畝の土地を保有。ここに高級ホテル、コンドミニウム、コテージ、国際会議場、乗馬、テニス、美術館等を検討中
後志	留寿都	ルスツ高原	加森観光	ルスツ高原ホテル新館(201室)が7月オープンしたのに続き、目下ヌキベツ岳(990㎡)に大型スキー場を造成中。来春ゴルフ場が完成し、25階建て超高層リゾートマンションを着工。将来は1万ベッドの滞在型リゾートへ
	倶知安	通年型大規模レジャー開発	東急グループ	ニセコ国際ひらふスキー場の拡張、ゴルフ場、リゾートホテル、ペンション村、コンドミニウム、テニスコート、ウオーターガーデン(プール、溪流下り、釣り場)、観光牧場、美術館、高山植物園
	赤井川	大規模通年型リゾート	日本楽器製造(ヤマハ)	スキー場、宿泊施設、スポーツ施設、音楽堂
	小樽	小樽運河地区再開発	西武セゾングループ	小樽運河沿いに連なる6棟の石造倉庫を物品販売店レストランなどに变身させ、新しい個性的なまちをつくる。年内に具体的計画まとめる。ホテル、賃貸マンションも計画
		オタモイ地区観光開発計画	小樽観光協会、第三セクター	レストハウス、植物園、エレベーター
	積丹	通年レジャー基地	北海道開発事業社	積丹岳スキー場、ゴルフ場、ホテルを計画
黒松内	ペンション村	飛鳥建設グループ	歌才地区の自生ブナ林北限地帯を活用。飛鳥系列のペンション・グループ会社が現地を視察	
空知	夕張	夕張バカンス村	夕張市、民間	キャンプ場、トム・ソーヤー冒険共和国
		夕張岳スキー場開発計画	国土計画(西武鉄道グループ)	数年前から構想はあるというが、明らかではない
	三笠	三笠「1億年古代の森」	第三セクター(予定)	桂沢湖のリゾート開発
	美唄	リフレッシュ美唄健康の丘スポーツランド	美唄市	10月に一部オープン。テニスコート、ゲートボール場、総合アリーナ、クアハウス、ファミリースキー場、レストハウス、キャンプ場
	浦臼	樺戸・浦白山スポーツランド計画	ウラウスリゾート開発公社(第三セクター)	スキー場、ゴルフ場、観光牧場
	砂川	砂川オアシスパーク建設	(財)砂川オアシスパーク協会	石狩川の洪水対策として設ける遊水池を利用し、運動場、バンガロー、サイクリングロード、体験広場などを造成
知	滝川	丸加山観光開発	滝川リゾート開発(第三セクター)	スキー場、スカイ・スポーツ・ゾーン、ホテル、ゴルフ場、別荘分譲
	上砂川	カナダランド計画	カナダ交流センター(予定)	カナダの炭鉱まちと姉妹都市になっている点を生かした構想。カナダ資料館・物産館、サウナ付きレストラン。ペンション、テニスコート、屋内カーリングアリーナ、ウエディングチャペル、羊の牧場。事業費17億円
	歌志内	スイスランド計画	歌志内市、民間	神威岳の一带にスイス風のホテル、ペンション、教会、ロッジなどを建て、馬場、テニスコートなどを造成。一般の家もスイス風にする。63年度から10年計画

(月刊ダネ'87.10月号より)

表-2

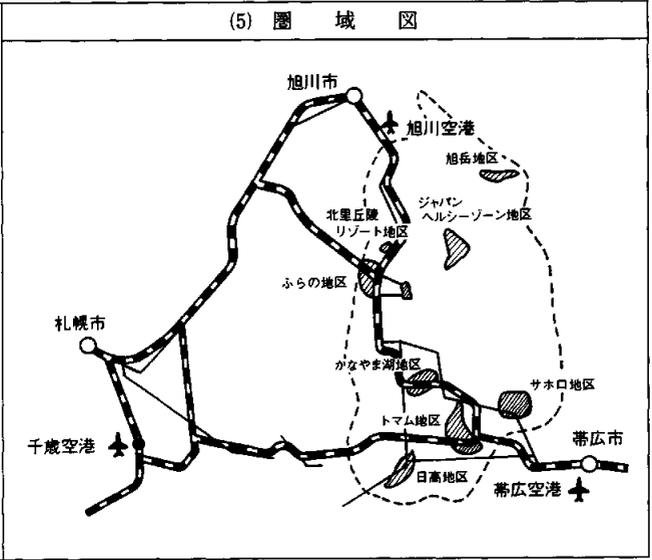
全 体 概 要

北 海 道

(1)構 想 名	北海道富良野・大雪リゾート地域整備構想							
(2)対象市町村名	富良野市・東川町・美瑛町・上富良野町・中富良野町・南富良野町・占冠村・日高町・新得町(1市7町1村)							
(3)面 積 (ha)	富良野市	60,163	東川町	24,961	美瑛町	67,239	上富良野町	23,898
	中富良野町	10,849	南富良野町	66,674	占冠村	57,114	日高町	56,885
	新得町	106,264	合計 474,047					

(4)地域の現況と特定地域の設定理由

- 本地域は、北海道新長期総合計画において国際リゾート連担都市の中核地域として位置付けている。
- 当地域は、北海道の中心部に位置し、大雪・日高連峰の雄大な山岳や大樹海など豊かな自然と景観を有しており、これらの立地環境特性を生かしたリゾート開発が民間事業者によって活発に進められつつある。
- 本地域へのアクセスは、旭川・帯広・千歳の3空港、JRリゾートエクスプレスや国道等の拡充整備によって、近年、利便性が著しく向上してきている。
- また、地域内は鉄道や道路によって結ばれており、近年、観光面を中心に市町村関係者の連携が強化されてきている。
- このような立地条件や地域特性を活かした施設整備と地域間の有機的な連携を図ることにより、新しいニーズに応え得るバリエーションに富んだ国際レベルの長期滞在型リゾートゾーンとしての形成が見込まれる地域である。



重点整備地区の区域及び当該地域ごとの整備に関する事項

地区名	市町村名	面積(ha)	整備の特色及び主要施設	主な事業主体	事業費(億円)
旭岳地区	東川町	1,910	山岳スポーツと温泉保養を組み合わせた山岳レクリエーションゾーン ・ノカナススキー場、オートキャンプ場 ・天人峡ヘルスセンター	(株)東川振興公社	77
ジャパンヘルシージョーン地区	美瑛町 上富良野町	5,669	十勝岳連峰の大自然を背景とするアクティブ&リフレッシュゾーン ・リフレッシュセンター、リゾートホテル ・スキー場、ゴルフ場、アクアフィットネスハウス	国土計画(株)	681
北星丘陵リゾート地区	中富良野町	509	花と香りの高原彩香の里で展開されるクリエイティブゾーン ・ラベンダー園、ゴルフ場、植物園 ・ファーマーズマーケット	中富良野総合開発(株)	105
ふらの地区	富良野市	3,808	ワールドカップ富良野スキー場を中心に、文化・スポーツ・グルメを組み合わせたアーバンゾーン ・富良野スキー場、新富良野プリンスホテル ・セミナーパーク、ふらの高原ゴルフコース	国土計画(株)	443
かなやま湖地区	南富良野町	3,428	「湖」・「緑」・「氷」のコントラストを活かしたレイクブレイゾーン ・湖畔キャンプ場、かなやま湖多目的アリーナ ・遊覧船、ミュージックの森	関兵精麦(株)	79
トマム地区	南富良野町 占冠村	4,780	大自然の中にスポーツとコンベンション機能を有した山岳リゾートゾーン ・国際会議場、ザ・タワー、アイスアリーナ ・音楽堂、コンピューターエアポート、スキー場、ゴルフ場	関兵精麦(株) (株)シムカップ・リゾート開発公社	939
日高地区	日高町	4,150	森との語り、水辺とのふれあいができるファミリーリゾートゾーン ・観光牧場、森の広場、サイワイ広場 ・セカンドハウス村、スキー場	国土計画(株) (株)日高町振興公社	82
サホロ地区	新得町	3,585	雄大な十勝平野のパノラマを望む山岳リゾートゾーン ・パカンス村、クラブメッド・サホロ ・サホロスキー場、サホロゴルフ場	(株)サホロリゾート 狩勝高原開発(株) 帯広測量(有)	235
合 計		27,839			2,641

事実、道内の各市町村のリゾート開発計画には、国土計画、西武セゾングループ、東急グループなどの本州の観光資本が必ずといっていいほど名を連ねている。道内企業の大手では、関兵グループ（ホテルアルファ）、加森観光等である。

自治体に、住民本位の開発を進めるため、大手企業をコントロールするだけの力があれば別だが、ほとんどの場合企業に協力するだけで精一杯である。

そもそもリゾート法の趣旨自体に、住民本位の地域開発などは無理な要素が含まれているのである。対外経済摩擦に対処して「内需拡大」策として効果を発揮させたいとする姿勢と、住民本位の漸進的で長期的な開発の姿勢は合わないのである。また、未曾有のスケールの開発だけに、行政的手続や計画の進展等の面で、行政主導、大手企業本位の体制にならざるを得ないのである。一部の自治体で、「」を進める住民の会」のような組織がつくられることもあるが、それらは企業進出のための地均し役割を負わされたり、行政主導を合理化させるための受け皿づくりであったりすることが多い。

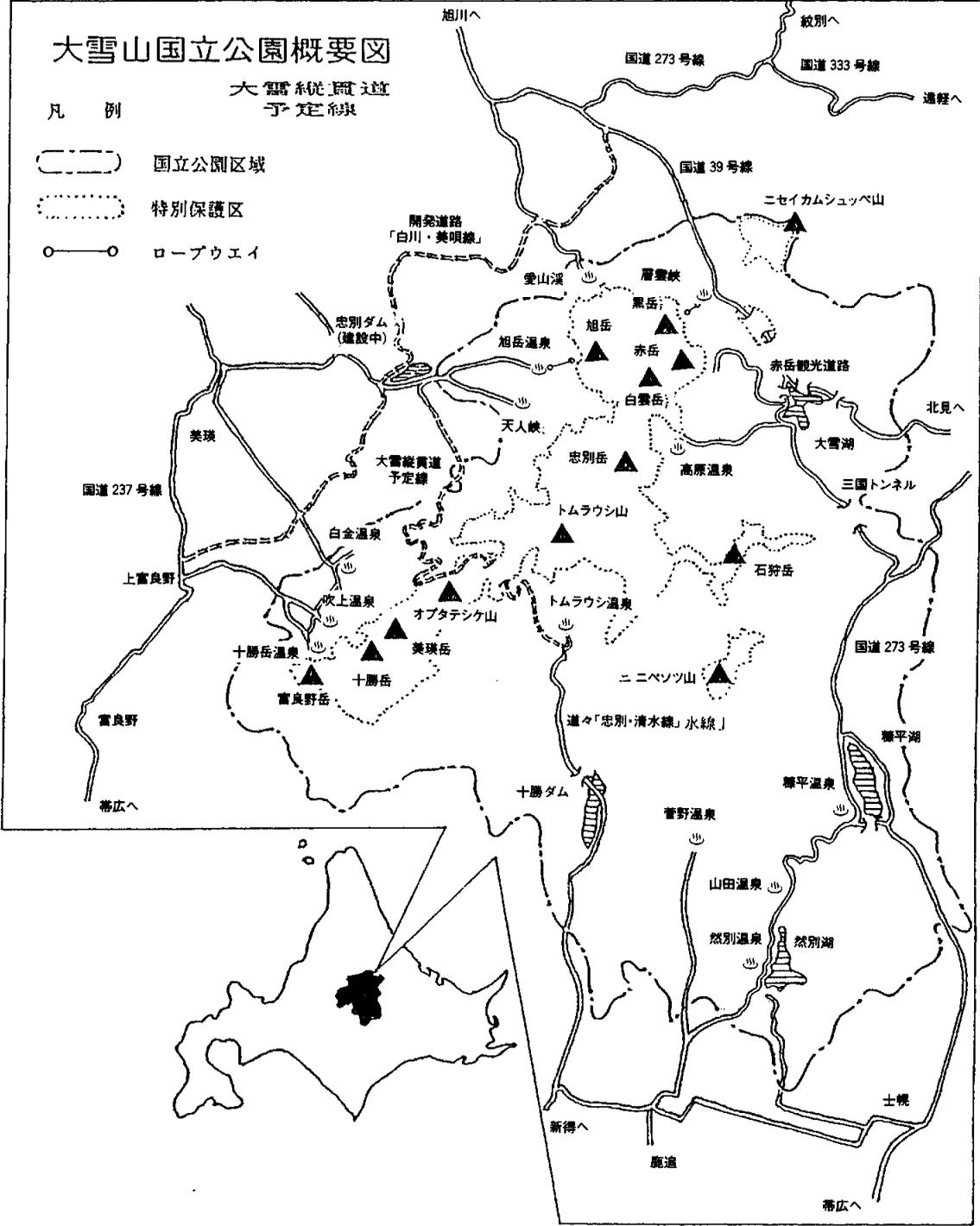
サホロリゾート、アルファリゾート・トマムにみられるように、大手企業の参画の代償として、自治体が上下水道、取付け道路などの基盤整備や土地に付加価値をつけるための施設造りを余儀なくさせられることも多い。また、すぐ利潤を生むスキー場、ゴルフ場、ロープウェイ、ホテル等の施設は企業が事業主体になり、メリットのない博物館、野営場、体育館、会議場等の施設は自治体が主体になる場合もある。それらの施設にしても、国が特定施設としてモデル化しているもので、リゾート法の適用を受けやすくするため、安易にそれらを盛りこんだ計画を作りがちである。その結果、オリジナリティは消え

(図-2)



大雪山国立公園概要図

(図-3)



て画一的内容になりがちである。

近年のリゾート施設は、年々高級化の方向を辿っており、また国際化に対応した近代施設では、働く従業員も高度な訓練を受けている必要があつて、それらの要員はほとんど本社のある都会から出向させることが多いから、地元からの雇用は意外と少ないものである。リゾート地区であつた収益も、本社のある都会に吸収されるから、税制上のメリットも地元にとつてはあまり無いといわれ、総体的に長期的にみれば地域振興になるどころか、負担増で逆の効果を生むことも考えられる。時間は掛かつて、住民の知恵を集めて、その土地、町ならではのユニークな地域開発を少しずつ作り上げたいとする地域振興策は、リゾート法によつてむしろ阻害されると考えられる。

◆画一化される観光、レジャー

第三の問題は、国民が本来豊かな自然の中で、自由に独創的にレジャーを楽しみ、観光ができるどころが、大規模に占有され、施設中心の画一的内容にされるため、国民の観光やレジャーの内容までもが貧しくさせられる危険があることである。

先のリゾート開発計画の一覧をみてわかるとおり、驚くほどの似た内容である。これでは全国各地どこへ行つても、ワンパターンの連続である。どこかそのような所を離れて別の所へと考えても、交通・輸送などの機関がリゾート基地中心に整備が進み偏りが生じているため、個別的な楽しみ方も難しくなる可能性がある。一方、企業側は旅行社、航空会社等とタイアップして、大量の客をパッケージして内外から送りこむ体制をとるため、受け入れ側も少々料金の高い個人客よりも、コストは安い、経営的

に安定する量の方を重視するようになる。かくて、ますます国民の観光、レジャーは画一化し貧困化する、という図式も単純だ、妄想だとしてまんざら笑えないのである。

◆残したい大雪山の自然

リゾート法は、いま大雪山で動き出そうとしている。たぐさんのリゾート開発候補地の中で、北海道ではニセコ・羊蹄周辺地域と共に、富良野・大雪山域が選ばれたからである。富良野市、東川町など一市七町一村が対象地域で、対象面積は総計四十七万四千ヘクタールである。(表1-2)

すでにリゾート開発が行われている、富良野(富良野スキー場)、占冠(トマム・アルファリゾート)新得(サホロリゾート)を核に長期滞在型の大リゾート基地を形成する計画である。重点整備地区の総事業費は、二千六百四十一億円。主な事業主体は、国土計画、ホテルアルファグループ、西武セゾングループなどである。大雪山国立公園と直接関連する重点整備地区は、東川町の旭岳地区、美瑛町・上富良野町のジャパンヘルシーズン地区(美瑛富士岳)新得町のサホロ地区である。いずれもスキー場を中心としたリゾート開発である。

計画を概観してこれらの中に、やはりリゾート法の問題点で指摘したことがらが、そっくり含まれることである。それらをどう解決していくかは今後の課題としても、二つほど注意しておくことがある。一つは、冒頭にあげた大雪縦貫道の復活である。旭川開発建設部は、独自のリゾートプランは一つの見本として示したもので、関係町村の要望によって変えることはやぶさかでないとしながらも、大雪縦貫道の建設については開発道路に指定されている

限り、建設の意思があると表明していることである。今後リゾート基地計画の進展と共に、着工となる恐れが十分あることである。二つ目は、美瑛町が進めているジャパンヘルシーズン開発の変身である。この計画は、住民主導のユニークな地域開発計画として注目されていたが、リゾート法の出現で行政主導、内容もリゾート法に乗った便宜的なものにすっかり変わってしまったことである。住民主体の息のながい地域開発がいかに大変なものであるか、そのような状況にリゾート法がどう作用するものか、多くの示唆を与えている点に注目すべきである。大雪山の自然は、いま縦貫道建設時に次いで、重大な局面に出会っている。この貴重な大雪山の自然を未来に引き継ぐために、真剣な取組がいま必要とされている。

(旭川工業高校・教諭)



M.S